

## 風炉・唐物

唐物茶入を盆にのせずに扱う点前。

水指前に茶入を飾り付けておく。

（始めから点前座勝手付（建水の位置の上）に飾っておいてもよい）

### 《点前手順》

仕組んだ茶碗を運び出し、左膝前あたりに一旦おいて、勝手付（建水の位置の上）に置く。

仕組んだ建水（柄杓・蓋置が飾ってあるならば建水のみ）を持ち出し、左膝横に置き、柄杓を左手で取って右手に持ち替え、左手で蓋置をとって右手の柄杓と持ち替え、右手で蓋置を風炉左脇に置き、そこに柄杓を引く。

最初の挨拶。

茶碗を右手で取って居前に置く。

茶入を右手で取って居前（茶碗の前）に置く。

茶入の仕覆を脱がせて、茶入を右手で居前に置き、仕覆を定所（建水の後ろ等）に置く。

帛紗捌き（行）して左手に持たせ、茶入を右手で取って左手の帛紗と持ち替え茶入は左手で持ち、常の通り茶入を清め、また帛紗と取り替えて右手で元あった水指前に置く。

再度帛紗を草に捌き、常の通り茶杓を清め、常の通り茶入の蓋に掛ける。

帛紗を左手に持ちながら茶笥の綴じ目を見て建水の肩の方に置く。

（◆しばらく常の通り）

（※茶を茶碗に入れるところから）

右手で茶杓を取って茶碗に渡し掛けておく。

右手で茶入を取り、左手に渡し、右手で蓋をあけて、蓋を茶碗の右隣に置く。

右手で茶碗にわたした茶杓を取って、茶入を持っている左手の小指あたりに茶杓をひっかけて持ち直す。

茶入から茶碗に茶を掬い入れ、入れ終えたら茶杓は茶碗にわたし掛けておく。

（帛紗で茶入の口をさっと清め、帛紗はすぐに腰に戻す）

茶入の蓋をして、茶入を右手に渡して、水指前の元の所に戻す。

茶杓を取って茶碗のなかの茶をよくこなす。

茶碗の縁で茶杓を打って茶を落とし、左手であしらって、元にあった通り茶入に掛ける。

柄杓を取って左手に持たせ、右手で帛紗を片手捌きし、  
帛紗で釜の蓋を取って蓋置に置く。

帛紗を腰に納める。

湯を汲み、適量を茶碗に入れ、残りの湯を戻して柄杓を釜に掛ける。

建水近くの茶筴を取って茶を点て、茶筴を元のところに戻す。

（◆しばらく常の点前の通り）

（※茶杓を清め終わったところから）

※常の場合は茶入を水指の右前に移すが、唐物点前の場合は移動させずにそのままの位置

茶碗を右手で取って、最初に置いた勝手付（建水の上あたり）に置く。

柄杓を取って、合を水指の前の縁に仰向けに掛けて持ち直し、適宜に水を汲んで釜に入れる。

水を入れ終えたら湯返しをする。

釜の前の縁に柄杓の合を掛けて持ち直す。

柄杓を左手に持ち替えて構え、右手で釜の蓋をする。

そのまま右手で蓋置を少し手前に移す。

柄杓の合をその蓋置の上に置く。

左手で建水を引いて、その建水の縁に柄杓の柄を掛ける。

（★上の一連の所作は、茶碗が邪魔になるようであればおこなわず、元の通りに蓋置に柄杓を引いておけばよい）

左手で水指の蓋を取る。

（常の水指の場合、どうしても取り難ければ右手で）

右手に持ち替え水指の蓋を閉める。

客からの拝見の所望を受ける。

茶入を右手で取って客付に振り向き、居前に置く。

茶碗を水指真ん前（茶入のあったところ）に移す。

帛紗を行に捌き直し左手に持たせ、右手で茶入を取って左手の帛紗と取り替え、右手で帛紗を持って茶入を常の通り清める。

右手の帛紗と左手の茶入を取り替えて、右手で茶入を客付に回して定所に出す。

仕覆を取って茶入の下座に出し、茶杓を取って客付きに向け仕覆のつがりのあたりに茶杓の節上がくる程度に置く。

風炉前に戻って柄杓・蓋置を右手で持ち、左手で建水をもち、逆回りにまわって水屋に下がる。

また出て茶碗を持って下がる。

（運び水指ならまた出て水指を引く）

三器が戻ったら出て、客付に座り、茶入を縁内居前に取り込み、仕覆・茶杓を右手で取って左手に持たせ、客からの一礼を受けて戻る。